



工学部全景

特集

西条キャンパスは、今！

西条キャンパスは現在建設ラッシュであり、大きくその姿を変えつつある。我が広島大学の本拠地となる所であり、多くの方々に関心をもたれている問題であると思われるので、特集として紹介することにした。文、写真とも関係学部の広報委員に一任しており、いささか統一を欠く点が気になる。

工学部

工学部は、広大キャンパス統合移転の先陣として昭和五十七年に千田町より引越した。以来まる九年経過して来春には移転十周年を迎える。

構内はサービス幹線道をはさんで二つの区域に分かれていて、八階建高層研究棟（A1～A4）及びそれをつなぐ低層棟（C0～C4、B1～B4）の群（写真左上）と、二十の独立実験棟（D～G）の群（写真右上）から成る。この大きな器に、教職員四百名、学生三千名が日々研鑽を重ねて、技術立国を支える研究と人材の育成が行われている。いくつかの構内スナップを紹介しよう。



サービス幹線道の風景 移転直後（上）と現在（右）並木が9年の歳月を表現している



千田町キャンパスにあった正門の門柱（大正10年設置）も移転した



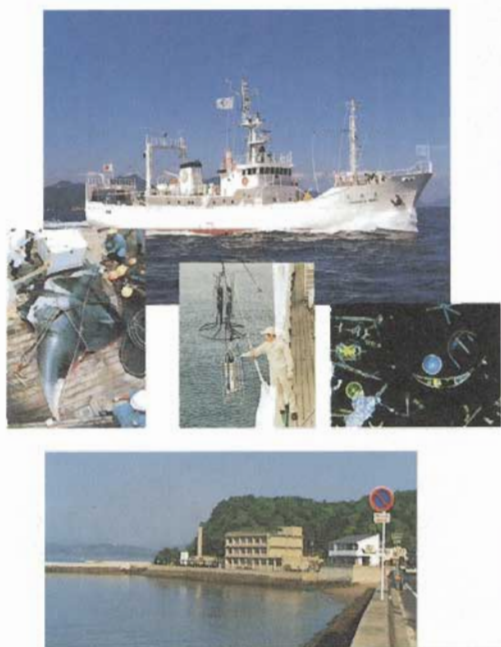
工学部玄関（事務・管理棟）



生物生産学部

本学部は、生物生産学科一学科、そして水産、畜産、食品の三コースから構成されている。このたび試みに、各コースを「カラー」で表わすことを考え、各コースの構成員に聞き取り調査をしたところ図1のように水Ⅱブルー、畜Ⅱグリーン、食Ⅱオレンジが多かった。では広大カラーは？、各コースでは精力的に研究がなされているが、その一端を紹介する。水産系では実験所、練習船を駆使して海の環境と水産資源の増産にいろいろな角度から、また畜産系では家畜の品種改良に細胞レベルから取り組んでいる。食品系では、健全な食品にかかわる研究と、この構成成分の一つ、タンパク質に分子レベルから組みタンパク質工学とでもいえる研究を行っている。

練習船豊潮丸と附属水産実験所



附属農場

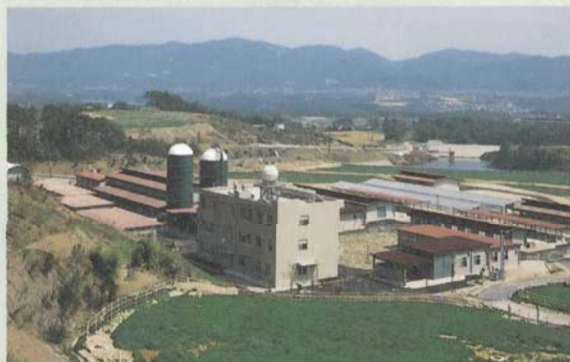


図1

水産系	畜産系	食品系

鶏初期胚を操作して作出した白色レグホンと黄班ブリマスロックとのキメラ鶏（ふ化後一週齢のひな）



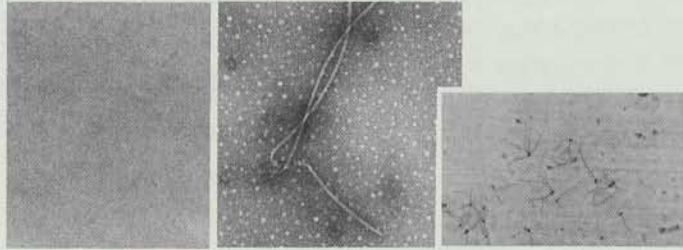
ニワトリの新品種

鶏初期胚の人為操作に必要な装置（クリーンベンチ内に置いた実体顕微鏡とマイクロナニユビレーター）

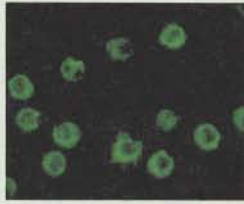


教育学部

広島大学はかつてペスタロッチャー研究のメッカであり、学部内に、ペスタロッチャー資料室が設けられている。音楽棟は他学部に見られない特徴あるものである。近くに北第2福利施設があり、留学生センターも本学部の建物の中にある。



フェッチンの結晶と分子集合としてのべん毛タンパク



鶏の栓球（哺乳動物の血小板に相当する有核細胞）中の細胞接着因子フィブロネクチンの蛍光抗体陽性像



フィブロネクチンによる鶏胚繊維芽細胞の接着伸展像

ニワトリの細胞が細胞接着因子を生産することを世界で初めて証明した



教育学部玄関



音楽棟



広島高等師範学校初代校長の北条時敬の像は教育学部の中庭にある



食堂は南側にあり、眺望も良く、明るく、清潔である。教育学部のほとんどの教職員、学生が利用している。

北第2福利施設には食堂、軽食堂、売店、書店がある



理 学 部

理学部は、現理学部1号館の壁面色を基調とし、同館正面玄関の鉄扉の一部を講義・管理棟正面に移設するとともに、管理棟正面の上部には大時計を設置して、研究棟4棟(8F・2棟、7F、3F)、超低温超高压実験棟(2F)、危険薬品庫(1F)、動物飼育室(1F)、特殊加工技術開発室(2F)、講義管理棟(3F)の合計9棟・延面積約29、320㎡が本年5月に完成している。なお、本年度工事として環境整備のほか、生物学科



演奏室は、響きがとても豊かで、オーケストラ・ピットもあり、室内オペラの上演も可能である

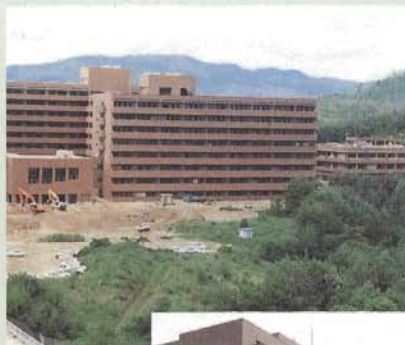


微晶研究施設



西方面からの理学部正面

温室、同植物園の整備が予定されている(現在、事務局分室のある位置)。移転は本年8月から9月にかけて行う計画で準備が進められており、10月からは新校舎で教育・研究がおこなわれる。



工学部から研究棟A、C、講義管理棟を眺む



両生類研究施設

北東方面から研究棟C、Dを眺む

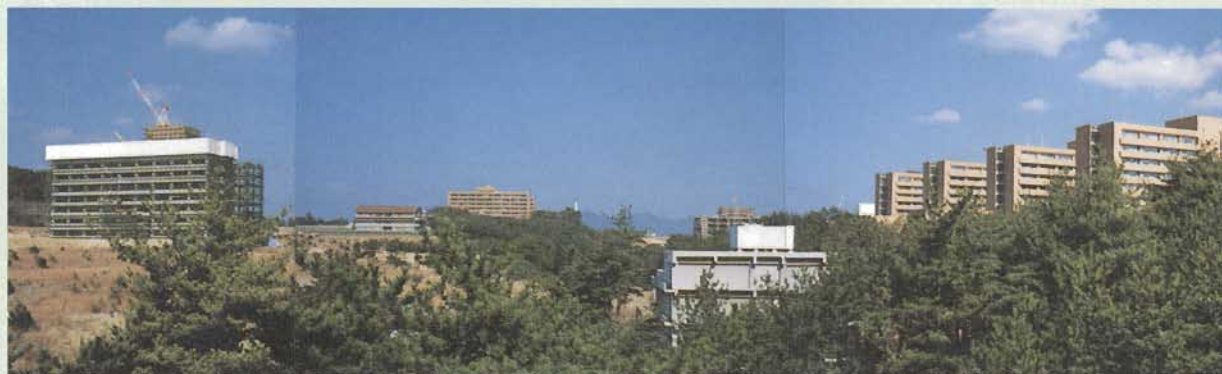


総合科学部

総合科学部の移転は平成5年3月に完了し、平成5年度の入学生は最初から西条キャンパスで授業を受けることになる予定です。現在、研究棟2棟の建設が進行中であり、その2棟を結ぶ研究棟や専門講義棟および一般教育の講義棟・実験棟、事務棟の基礎工事も開始されています。平成4年度に低層の実験棟や独立した共通講義棟等が単年度で建設され移転の環境が整う予定です。



工学部屋上から西方に眺めた建設中の総合科学部研究棟A・C。その間に研究棟B、手前に講義棟、左手に西図書館予定地の工事の様子



南の橋の上からみたキャンパス 左から、総合科学部・音楽棟・教育学部・課外活動施設（背後に中央図書館）・工学部



中央廃液処理施設

西条キャンパスを縁の下で支えている中央廃液処理施設は昭和57年2月に設立以来第2期、第3期の拡張・増設を経て本年3月に完成。移転全学部がそろっても対応できる。昨年実験濃厚廃液年間80トンと一般実験排水年間16万トンの処理を実施した。

この施設の役割はそのほかにも、構内排水の検査や廃液取扱いの指導など多岐にわたり、教官4名、技官2名、事務職員1名で奮闘している。



総合情報処理センター

学術研究及び一般情報の処理教育にともなう
 電算機利用を総合的に行う目的で設置され、学
 生や教職員のための最新鋭の大型コンピュータ
 と端末を配備した全学共同利用センターである。
 昭和56年度に建設された約一、〇〇〇㎡の建物



の西隣りに
 本年度約
 一、三〇〇
 ㎡の増設が
 予定されて
 いる。

集積化システム研究センター

昭和63年12月にスーパークリーンルームを含
 む実験研究棟が竣工した。三次元光結合共有メ
 モリと称する新構造LSIの開発を軸に、並列
 処理、学習・連想機能を備えた次世代コンピュ
 ータの実現をめざしている。

遺伝子実験施設

平成元年4月に開所した。遺伝子に関する基
 礎的・応用的研究および教育のための学内共同
 利用施設。組み換えDNA実験指針に準拠しか
 つ放射性同位元素が使用できるP-11、P
 -3の設備を持つ。

遺伝子産物の解析に用いるペプチドシーケンサーとアミノ
 酸分析計



LSI製作に用いる電
 子ビーム直接描画装置



集積化システム研究センター（手前）と遺伝子実験
 施設（奥）

留学生センター

平成2年6月に西条キャンパスに設置（同時
 に東京大と京都大にも設置）された。「日本語教
 育部門」と「留学生指導部門」がある。前者で
 は教室での授業の他に、実地見学、キャンプ、
 研修旅行などを通して、留学生に対し多様な日
 本語教育を行っている。また後者では、留学生
 からの修学上・生活上の相談に幅広く応じると
 ともに、広報活動やオリエンテーション等を通
 して指導を徹底させていこうとしている。

昼食後のひととき、広場で語り
 合う留学生と日本人学生たち
 世界は広く、話題は尽きない

留学生センターは教育学部
 棟（講義棟2・3階とA棟
 3階の一部）にある



附属幼稚園



遊戯室 オープンスペースとして利用でき、異年齢（4才児、5才児）の幼児の交流ができるようになっている



保育室？ 年少組の楽しい誕生会の風景

低温センター

寒剤供給の円滑化を図るとともに低温技術の開発及び関連分野の研究・教育を行っている。

ヘリウム液化室約360㎡は昨年6月に完成し、10月から西条キャンパスにある学部で寒剤の供給を開始している。



ヘリウム液化室

アイソトープ中央実験施設

放射性物質の利用及び安全管理を目的とした実験施設で、排水水中の放射性物質を高度に除去する排水処理設備を備えている。本年3月に延面積約820㎡の建物が完成し、7月から開設される予定である。



建設中の中央図書館

中央図書館

昭和47年、西条地区への統合・移転計画の進展に対応して、図書館等将来計画委員会を設置し新図書館構想の検討を開始して以来、20年近い歳月を経て、いまようやく新キャンパスに高度情報化時代にふさわしいインテリジェント図書館新営が実現しつつあります。

この中央図書館は広島大学の研究・教育の中心施設として、また、今後の図書館サービスとして重要なマルチメディアを取り扱う各視聴覚室、ライブラリー・ホールのほか貴重資料室、和装資料室等設備の設置を計画しており、完成すれば国立大学屈指の中央図書館（約16、000㎡）となります。なお、今夏竣工予定の建物は第1期工事分（10、090㎡）で、引き続き第2期工事が予定されています。

編集後記

編集方法を変更して最初の号をおとどける。多くの方々に読まれる広報誌を企図したつもりである。しかし、編集を終えて見直してみると不備な点が随所に見られる。今後工夫を重ねることとお許しいただきたい。編集実務にあたって教育学研究科幼児学専攻の浜崎隆司助手のご令室寿賀子氏に多大なご協力をいただいた。また、表紙のデザインも同氏によるものである。深甚なる謝意を表す。

（第23期広報委員会委員長 清水凡生）

広大フォーラム第二三期三号
 編集発行 広島大学広報委員会
 （庶務部企画調査課）
 住所 広島市中区東千田町一丁目一番
 八九号
 電話 (〇八二) 二四一一三三三
 内線 三五三九
 印刷 (株)ニシキブリント
 広報委員 清水凡生 川上英之 堀越孝雄
 狩野充徳 青木 薫 岩崎文人
 三井正信 高林賢生 沖村雄二
 辰巳 淳 河原道夫 岩谷和夫
 野木了三 吉原達也 今村 詮

谷本忠明氏 寄贈

200/0816
01. 4. 6
文書館